



# 建昌っ子だより

【校訓・キャッチフレーズ】元気で 力のある 建昌の子

## 温かい言葉、やさしい言葉のシャワーを

校長 坂口 利一

地域が育む「かごしまの教育」県民週間では、のべ400人の方々が来校され、本校の教育活動を参観していただきました。皆様の関心の高さを改めて感じることでした。来校された皆様にアンケートをお願いしましたところ、子どもたちの授業の様子や学校環境等について、たくさんのお褒めの言葉やありがたい御意見をいただきました。今後の学校経営に生かしてまいります。ありがとうございました。

また、週間内にPTA主催の建昌フェスも行われ、多数の参加者を得て大盛況に終わることができました。御協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



さて、下の詩は、金子みすゞさんの『こだまでしょうか』という作品です。

「遊ぼう」っていうと 「遊ぼう」っていう。  
「馬鹿」っていうと 「馬鹿」っていう。  
「もう遊ばない」っていうと 「もう遊ばない」っていう。  
そして、あとで さみしくなって、  
「ごめんね」っていうと 「ごめんね」っていう。  
こだまでしょうか、 いいえ、誰でも。



本校は、今年度「人権の花運動」に取り組み、人権尊重の視点に立った教育活動を推進してきました。子どもたちの多くが相手を思いやった言葉かけをしています。時折、人を傷つける言葉が聞かれる場面に出会うこともあります。何気ない一言で人は傷つきもするし、笑顔にもなれます。この詩からは、「言葉は、人から人へこだまする」ものなので、やさしい気持ちで対話できることが人と人との関係では大事である、とメッセージを送っているように感じます。

これからも「温かい言葉」「やさしい言葉」のシャワーが降り注ぐ建昌小学校になってほしいと考えています。「ふわふわ言葉とチクチク言葉」「ほめ言葉のシャワー」について道徳等で考えている学級もあります。

12月初めは人権週間です。ぜひ、自分の言葉はどうかな、言葉遣いを大切にしているかな、相手のことを思いやっているかなと考える機会にして欲しいと考えています。